

作物名：きく

病害虫名：アワダチソウグンバイ（学名：*Corythucha marmorata*）

### 1 被害の特徴と診断のポイント

- 成虫（写真1）及び幼虫の吸汁により、葉に白いかすり状の脱色斑（写真2）が発生し、葉裏には黒い粘液状の排泄物が付着して汚れる。
- 被害が著しい場合は、葉全体が白化し、枯死に至る場合もある。



写真1 アワダチソウグンバイ成虫

### 2 伝染源・伝染方法

- 成虫の体長は約3mmで軍配に似た形状をしている。
- 前翅には周縁部と一部の翅脈上に小さな棘が並んでおり、特徴的な褐色斑がある。
- 終齢幼虫は体長約2mmであり、全身が褐色の紡錘形で多数の棘がある。
- 本種は、主にアスター、きく、ごぼう、ひまわり、セイタカアワダチソウ、ブタクサなどきく科植物に寄生する。



写真2 葉表面のかすり状の脱色斑

### 3 発病しやすい条件

### 4 防除方法

- きくでは、コテツフロアブルが登録されている（平成28年1月20日現在）。
- ほ場周辺のセイタカアワダチソウやブタクサ等のきく科雑草は発生源となるので除草を行う。
- 平成25年6月に県南のきくほ場において、本種の寄生が確認されて以降、県内の広い範囲で寄生が確認されている。本県では、その他になすやひまわりでも被害が確認されている。
- 本種は、北米原産の侵入害虫であり、平成12年に兵庫県のセイタカアワダチソウで初めて寄生が確認されて以来、西日本から東日本へと分布を拡大している。

### 5 出典

#### (1) 参考文献

- 菜園の害虫と被害写真集（池田二三高）

#### (2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

（令和5年9月改訂）